

すてきなタータンチェック (雑誌 月刊たくさんのふしぎ 2018年9月号 第402号)

奥田実紀文 穂積和夫絵

タータンチェック、きっとみなさんどこかで一度は見たことあるんじゃないでしょうか？このタータンチェック、こう呼ぶのは実は日本人だけって知っていましたか？海外では、「タータン」と呼ばれています。ここ神戸にも実はオリジナルのタータンがあります。「神戸タータン」と呼ばれ、ネクタイやスマホケースや婚姻届、マラソンのゴールテープにもなっているのだとか…。2018年8月30日(木)の神戸新聞に、この「神戸タータン」の記事が載っていました。神戸タータンは神戸の開港150年を記念して東灘区で紳士服店を営む石田さんという方が考案しました。神戸タータンみなさんは見たことありますか？神戸港の青を貴重としたとてもきれいな柄で、みなさんの先輩、神戸松蔭女子学院大学では、学生がこの模様をあしらった衣装をつくり、ファッションショーを開いているんだそうです！そして最近もうひとつ、神戸・三宮の商業施設「ミント神戸」が開業12周年とグループの神戸新聞創刊120周年を記念して製作した「ミントタータン」が誕生しました。(シンボルカラーのミントグリーンを基調に、不変を意味する黒、未来をイメージする白、阪神・淡路大震災で全壊した旧神戸新聞会館の外壁色のダークブラウンを取り入れた色合いは斬新でとてもさわやかな柄になっています)(神戸新聞2018年9月13日(木)朝刊より)神戸でいまとっても熱い！タータンの本を今月は紹介します。

タータンと聞いてまず思い浮かべるのは、イギリスなんじゃないでしょうか？そう、タータンチェックは、イギリスを形成する4つの国のひとつ、スコットランド、そしてその中でも北部にあるハイランド地方が起源です。タータンはスコットランドの国において正装でもあり、民族衣装でもあります。そして戦いのときの衣装でもありました。(男の人もキルトのようなスカートをはいていますよね？このスカートのような服、どうなっているのか知っていますか？この本にはその着方ものっていますよ！こうやって着てたのか！とおどろきます！不器用な私は着るのに手こずりそう...)戦いによって一度はタータン禁止令も出されたのだとか...タータンの歴史を知れば、イギリス、スコットランドの歴史も学べます。

さて、タータンの地、スコットランドは、イギリスのヴィクトリア女王からとても愛され、このタータンの柄もとても愛されました。王室から愛された柄ともなると、タータンは一気にブームとなり、そこから海外へと広がり、いろんな柄のタータンが生まれました。このブームにのり、なかにはタータンを使って悪儲けしようとする人たちも現れます。これに対し、スコットランドは、歴史的なタータンを守るため、タータンの柄を登録する登録制度をもうけました。国に布地の柄を守られているというのは、とても珍しいことなんです。タータンはスコットランドから愛された伝統的な大切な柄なんです。はじめにあげた「神戸タータン」もちゃんとして英国の「タータン登記所」に登録されているんですよ！そして、みなさんおそらく一番なじみのあるタータンなのではないでしょうか？伊勢丹の紙袋の柄、あれもタータンです。あの伊勢丹のタータンも「マクミラン・イセタン」という名前できちんと登録されているんです。他にも制服や雑誌などでみるタータンの柄、ひとつひとつちゃんと名前がつけられ、管理されているんですよ。いろんなチェック柄が世の中にはありますが、タータンチェックはなんだか他のチェック柄とは一線を画した特別感があるなぁとは前から思っていました。やはり奥が深いんですね。タータンに魅せられた作者、そして、紳士の服飾に関わり、ファッションや車や建築のイラストを描いてきたイラストレーター、ふたりがつくったタータンチェックの本。ページ最後の部分、二人でつくり、登録した「たくさんのふしぎオリジナルタータン柄」も必見です！

そして...いま神戸・六甲アイランドの「神戸ファッション美術館」では「スコットランドからの贈りものタータン展」を開催していますよ。(11月11日まで)タータンの布地を使ったワークショップも開催しているのだとか！この本を読んで、実際にタータンの柄に会いにいってみよう わたしもタータン柄の服を着て見に行く予定です